

1. 学歴

- 2005年 3月 京都大学経済学部卒業
2007年 3月 京都大学大学院経済学研究科修士課程修了
2010年 3月 京都大学大学院経済学研究科博士課程修了
2010年 3月 京都大学博士(経済学)

2. 職歴・研究歴

- 2010年 4月 国立環境研究所循環型社会・廃棄物研究センターポスドクフェロー
2012年 4月 東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学研究系国際協力学専攻助教
2014年 10月 国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター研究員
2014年 10月 経済産業研究所リサーチアソシエイト(現在まで)
2017年 4月 早稲田大学環境経済・経営研究所招聘研究員(現在まで)
2018年 7月 国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター主任研究員
2019年 4月 一橋大学大学院経済学研究科講師
2019年 4月 国立環境研究所客員研究員(現在まで)
2020年 8月 農林水産政策研究所客員研究員(現在まで)

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

環境経済学

(b) 大学院

上級環境経済学I

B. ゼミナール

基礎ゼミナール A

C. 講義およびゼミナールの指導方針

環境経済学の講義では環境汚染や気候変動が人間の健康・経済に与える影響や損失の可能性についての議論から始める。その上で、環境汚染や温室効果ガス排出量を最適な水準にするための政策(すなわち環境政策)の必要性を論じる。そして、ミクロ経済学理論などの「ロジック」に基づいて政策を設計し、その政策案の試行や他地域での事後評価による「エビデンス」に基づいて政策手段の選択を行うという考え方を学ぶ。これにより、政策形成を合理的に行うための思考法を養う。さらに、国内外の具体的な環境問題・政策の事例を共有する。

上級環境経済学 I では主に大学院生向けに環境経済学の学術論文を読むための訓練を行う。これにより、政

策研究における専門的知識を収集する能力を習得することが目標である。同時に、環境政策研究の手法やトピック、発見についての最先端の知識を共有することを目指す。

4. 主な研究テーマ

- (1) アジア諸国を対象とした環境政策の設計と評価
- (2) フィールド調査・実験を用いた環境経済学的研究
- (3) 行動経済学的な理論に基づく環境政策研究

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

"International aspects of waste management: The waste haven effect on global reuse Edward Elgar," *Handbook on Waste Management*(分担執筆), 2014, pp.216-237.

「ポーター仮説」『環境経済・政策学事典』(分担執筆), 2018年, 丸善出版。

(b) 論文(査読つき論文には*)

"Heterogeneous firms, the Porter hypothesis and trade," KSI-Communications DP, 2009-001, 2009.

* "An economic theory of reuse," *Sustainability Science*, Vol.5, No.1, 2010, pp.143-150.

* "The Environmental Consequences of Global Reuses," (Thomas C. Kinnaman との共著), *American Economic Review: Papers and Proceedings*, Vol.101, No.3, 2011, pp.71-76.

* "Global Reuse and optimal waste policy," (Thomas C. Kinnaman との共著), *Environment and Development Economics*, Vol.18, No.5, 2013, pp.595-614.

* 「家庭ごみ分別制度と社会的規範—日本とシンガポールにおけるアンケート調査の比較—」(和田英樹, 山田正人との共著), *環境経済・政策研究*, 8(1), 2015年, pp. 85-88.

* "Cooking Fuel Choices -Analysis of Socio-economic and Demographic Factors in Rural India," (Mriduchhanda Chattopadhyay, Toshi H. Arimura, Hajime Katayama, Mari Sakudo との共著), *環境科学会誌*, 30(2), 2017年, pp. 131-140.

* 「ランダム化比較試験を用いた途上国における環境経済学研究の現状と展望」, *環境経済・政策研究*, 10(1), 2017年, pp. 19-23.

* "Job change and self-control of waste pickers: evidence from a field experiment in the Philippines," (Maki Ikuse, Aries Roda D. Romallosa, Masahide Horita との共著), *Environmental Economics*, Vol.9, No.2, 2018, pp.22-35.

* "Informal recycling and social preferences: Evidence from household survey data in Vietnam,"(Kosuke Kawai, Yuki Higuchi との共著), *Resource and Energy Economics*, Vol.54, 2018, pp.109-124.

* 「有料化によるごみ排出量の抑制効果—「平成の大合併」の影響—」(都筑研哉, 鈴木綾との共著), *廃棄物資源循環学会論文誌*, 29, 2018年, pp. 20-30.

* 「植田先生に招待された廃棄物とリサイクルの経済学の展望—途上国・行動経済学・フィールド実験—」, *環境経済・政策研究*, 11(1), 2018年, pp. 30-38.

* 「社会的ネットワークがウェスト・ピッカーの有価物収集活動に与える影響—フィリピン共和国イロイロ市カラファン最終処分施設を事例として—」(田村響, 堀田昌英との共著), *廃棄物資源循環学会論文誌*, 29, 2018

年, pp. 266-278.

* "A model of inequality aversion and private provision of public goods," *The B.E. Journal of Theoretical Economics*, Vol.20, No.2, June 2020.

"Subjective probabilistic expectations, household air pollution, and health: Evidence from cooking fuel use patterns in India," (Mriduchhanda Chattopadhyay, Toshi H. Arimura, Hajime Katayama, Mari Sakudo との共著), Graduate School of Economics, Hitotsubashi University Discussion Paper Series No.2020-05, 2020.

"Ambiguity aversion and individual adaptation to climate change: Evidence from a farmer survey in Northeast Thailand," (Nagisa Yoshioka, Voravee Saengavut, Siraprapa Bumrungrit との共著), Graduate School of Economics, Hitotsubashi University Discussion Paper Series No.2020-06, 2020.

"Subjective risk belief function in the field: Evidence from cooking fuel choices and health in India," (Toshi H. Arimura, Mriduchhanda Chattopadhyay, Hajime Katayama との共著), RIEEM Discussion Paper Series, No.2003, 2020.

"Ethics of randomized field experiments: Evidence from a randomized survey experiment," Graduate School of Economics, Hitotsubashi University Discussion Paper Series No.2020-07, 2020.

(c) 翻訳

『サステナビリティの経済学—人間の福祉と自然環境』第14章, 第15章, 2007年, 岩波書店。

(d) その他

「環境分野における「エビデンスに基づく政策立案」とは？—日本の政策評価の現状と展望」, 環境情報科学, 48(1), 2019年, pp.25-29.

[書評]E・デュフロ+R・グレナスター+M・クレーマー著／小林庸平監訳・解説, 『政策評価のための因果関係の見つけ方』, 経済セミナー10・11月号, 2019年9月。

B. 最近の研究活動

(a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には*)

"Altruism behind recycling: A substitute for an environmental policy?" 日本経済学会春季大会, 名古屋大学, 2016年6月。

"Altruism behind recycling: A substitute for an environmental policy?" East Asian Association of Environmental and Resource Economics (EAAERE), Fukuoka, Japan, 2016年8月。

「フィリピンの処分場ウェイスト・ピッカーの時間選好パラメータの推計」, 環境経済・政策学会, 青山学院大学, 2016年9月。

"Social comparison, probabilistic expectations and pro-environmental behaviors: Evidence from a randomized control trial in Vietnam," 環境経済・政策学会, 青山学院大学, 2016年9月。

「フィリピンの処分場ウェイスト・ピッカーの時間選好パラメータの推計」, 中央大学アジアの環境と政策研究会, 2016年12月16日。

"Social Comparison and Preferences toward Pro-Environmental Behavior: Theory and Evidence from a Randomized Experiment in Vietnam," 名古屋市立大学応用経済学ミニ・カンファレンス, 2017年1月24日。

"Social Comparison and Preferences toward Pro-Environmental Behavior: Theory and Evidence from a Randomized Experiment in Vietnam," Manchester University Environmental Economics Workshop, 2017年

5月4日。

"Social Comparison and Preferences toward Pro-Environmental Behavior: Theory and Evidence from a Randomized Experiment in Vietnam," Association of Environmental and Resource Economists (AERE) Annual Summer Conference, Pittsburgh, Pennsylvania, USA, 2017年6月。

"Social Comparison and Preferences toward Pro-Environmental Behavior: Theory and Evidence from a Randomized Experiment in Vietnam," 上智大学経済学部セミナー, 2017年7月14日。

「経済学者による RCT は倫理的に問題か?—日本における RCT からのエビデンス—」, 環境経済・政策学会, 高知工科大学, 2017年9月。

* 「経済学と RCT でアジアの環境問題に取り組む: 実践的・倫理的課題へのアプローチ」, 第21回実験社会科学カンファレンスキーノートスピーチ, 関西大学, 2017年10月21日。

"Who underestimates environmental health risk? Evidence from cooking fuel choice and sickness in India," 政策研究大学院大学 Development Monthly Seminar, 2017年11月28日。

「ランダム化比較試験を用いた途上国における環境経済学研究の現状と展望」, JICA 研究所ランチタイムセミナー, 2017年11月30日。

"Subjective beliefs and estimated risks: Evidence from cooking fuel choices and health in India," 筑波大学経済学・実証ミクロセミナー, 2018年1月10日。

"Subjective beliefs and estimated risks: Evidence from cooking fuel choices and health in India," 京都大学貿易と環境に関するワークショップ, 2018年3月10日。

"Estimation of the subjective risk belief function: Evidence from cooking fuel choices and health in India," 大阪大学関西労働研究会, 2018年5月25日。

"Subjective beliefs and estimated risks: Evidence from cooking fuel choices and health in India," 慶應義塾大学応用経済学ワークショップ, 2018年6月9日。

"Subjective beliefs and estimated risks: Evidence from cooking fuel choices and health in India," The 6th World Congress of Environmental and Resource Economists, Gothenburg, Sweden, 2018年6月26日。

"Subjective beliefs and estimated risks: Evidence from cooking fuel choices and health in India," 神戸大学六甲フォーラム・環境経済学研究会, 2018年7月13日。

"Subjective beliefs and estimated risks: Evidence from cooking fuel choices and health in India," 日本経済学会秋季大会, 学習院大学, 2018年9月8日。

「公衆衛生改善のための説得的コミュニケーション・ツールの開発と評価: インドネシアにおけるランダム化フィールド実験からのエビデンス」, 環境経済・政策学会, 上智大学, 2018年9月9日。

"Subjective beliefs and estimated risks: Evidence from cooking fuel choices and health in India," The 12th Annual Meeting of the Environment for Development (EfD) Initiative, Hanoi, Vietnam, 2018年11月4日。

"Persuasive communications on take-up of a pay sanitation service: Experimental evidence from Indonesia," 政策研究大学院大学 Seminar Series in Economics, 2018年11月21日。

「公衆衛生改善のための説得的コミュニケーション・ツールの開発と評価: インドネシアにおけるランダム化フィールド実験からのエビデンス」, 第22回実験社会科学カンファレンス, 名古屋市立大学, 2018年12月22日。

"Persuasive communications on take-up of a pay sanitation service: Experimental evidence from Indonesia," Western Economic Association International (WEAI) International conference, Keio University, Japan, 2019年3月22日。

"Subjective risk belief function in the field: Evidence from cooking fuel choices and health in India," 一橋経済学

セミナー, 2019年5月8日。

「経済学者による RCT は倫理的に問題か? 日本における RCT 型ウェブ調査からのエビデンス」, 日本経済学会 春季大会, 武蔵大学, 2019年6月9日。

「日本に RCT は普及するか? 研究者から見た EBPM ムーブメント」, 京都大学先端政策分析研究センター (CAPS) 研究会第3回 EBPM セミナー, 2019年12月4日。

"Face-to-face communication on take-up of paid sanitation services: Experimental evidence from Indonesia," Association of Environmental and Resource Economists (AERE) Annual Summer Conference, Virtual, 2020年6月4日。

"Face-to-face communication on take-up of paid sanitation services: Experimental evidence from Indonesia," European Association of Environmental and Resource Economists (EAERE) Annual Conference, Virtual, 2020年6月25日。

「経済学と政策トライアルで環境問題に取り組む: 4つのキーワード」, 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所, 第24回コアプログラム研究会, 2020年8月7日。

"Face-to-face communication on take-up of paid sanitation services: Experimental evidence from Indonesia," Environment for Development (EfD) Initiative 14th Annual meeting, Virtual, 2020年11月16日。

(b) 国内研究プロジェクト

科学研究費若手研究(B)「途上国におけるランダム化実験による環境公共財の私的供給の研究」(研究代表者), 2017-2018年度。

科学研究費挑戦的研究(萌芽)「ランダム化比較試験を用いた環境・エネルギー政策研究の手法確立」(研究分担者), 2017-2019年度。

科学研究費基盤研究(C)「説得の環境経済学: 理論研究とフィールド実験による評価」(研究代表者), 2019-2021年度。

(d) 研究集会オーガナイズ

環境経済・政策学会 2018年大会、9月8-9日、上智大学、プログラム委員

環境経済・政策学会 2019年大会、9月26-27日、福島大学、プログラム委員

C. 受賞

2014年度 環境経済・政策学会奨励賞

7. 学外活動

(a) 他大学講師等

筑波大学社会工学類 非常勤講師 担当科目「国際開発論」(2018年度)

(b) 所属学会および学術活動

環境経済・政策学会(理事(2020年度-2021年度), 学会誌『環境経済・政策研究』編集委員(2011年度-), 大会プログラム委員(2018, 2019年度), 大会ベストポスター賞選考委員(2019年度))

日本経済学会

開発経済学会

環境・資源経済学会 (Association of Environmental and Resource Economists)

ヨーロッパ環境・資源経済学会 (European Association of Environmental and Resource Economists)

アメリカ経済学会 (American Economic Association)

ヨーロッパ経済学会 (European Economic Association)

廃棄物資源循環学会

(e) その他(公的機関・各種団体・民間企業等における講演等)

国際協力機構(JICA) 地球環境部廃棄物管理タスク勉強会講師(2017年3月29日, 2018年3月15日)。

講演「エネルギー・環境分野における RCT の現状と課題:環境経済学と政策形成」, 経済産業研究所(RIETI) 政策シンポジウム エビデンスに基づく政策立案を根付かせるために, 東京・赤坂, 2018年12月14日。

講演「子供たちの未来を助ける:公衆衛生改善のための説得的コミュニケーション・ツールの評価」, 東京財団政策研究所フォーラム フューチャー・デザイン・ワークショップ 2019, 東京, 2019年1月26日。

8. 官公庁各種審議会・委員会等における活動

環境省 日本版ナッジ・ユニット(BEST)連絡会議委員(2018年5月から現在)

経済産業研究所 日本におけるエビデンスに基づく政策の推進プロジェクト・メンバー(2016年2月から現在)

環境省 低炭素型の行動変容を促す情報発信(ナッジ)等による家庭等の自発的対策推進事業・内部検討会委員(2018年度, 2019年度, 2020年度)

環境省 ライフスタイルシフトに向けた効果的な情報発信調査業務 調査・設計(2019年度)